採用からおおむね３年以内の組合員対象
2022新入組合員労働学校
日時　2022年10月９日（日）10：00～
場所　ホテル テラス ザ ガーデン水戸（水戸市）
内容　講演「自治労とは」ほか
　　レクリエーション・昼食交流

自治労茨城

水戸市桜川 2-3-30　自治労茨城県本部
Ｅメールアドレス kenhonbu@j-ibaraki.jp
編集発行人 ＝ 千　歳　益　彦
毎　月　５　の　日　発　行
定　　価 ＝ １部５円（組合費に含む）
印 刷 所 ＝ コトブキ印刷株式会社

日立市職健闘し全国３位

第32回自治体職員等野球大会

全国大会で熱戦を繰り広げた日立市職

９月８～11日、第32回全日本自治体職員等野球選手権大会全国優勝大会が新潟県新潟市・阿賀野市・聖籠町で開かれました。大会には全国から22チームが出場。今年６月の県大会で優勝し８月の関東甲地区大会３位と勝ち進んだ日立市職は、健闘の末、３位となりました。

日立市職は、１回戦を広島県福山市職労連合と対戦し３対２と接戦を制し、２回戦は青森県職労に７回コールドで９対２と快勝。

大分県別府市職労と対戦した準決勝では、先制したものの序盤のエラーによる失点が響き３対５で敗れました。

別府市職労は決勝で北海道北広島市職労と対戦。５対３で勝利し、全国大会初優勝を果たしました。

地公労学習会
今後給与制度が課題

茨城県地方公務員労働組合共闘会議（地公労）は９月６日、茨城教育会館で学習会を開きました。

テーマは「２０２２人事院勧告の内容と課題」。公務労協（公務公共サービス労働組合協議会）の森永事務局長を講師に迎え講演を受けました。

森永さんは、今年の民間給与との比較で月例給が較差９２１円（０・23％）、ボーナス４・41月との結果から今年の勧告は初任給３千円（大卒程度）、４千円（高卒者）引き上げと30歳台半ばまでの俸給表改定、一時金０・10月分の引き上げにより４・40月分と３年ぶりの支給月数増となったことなど中央での交渉経過を踏まえ説明しました。

今後は、人材確保の観点に基づく給与水準、65歳定年を見据えた高齢層給与水準、２０２４年見直し予定の地域手当、能力・実績の給与反映、諸手当の見直しなど、給与制度のアップデートにむけ一体的に取り組む必要があると訴えました。

臨時職員評議会が定期総会
改善にむけ仲間づくり

県本部臨時職員評議会は、９月２日に第３回定期総会を開きました。

総会は、はじめに野木議長（水戸市会計年度任用職員組合）のあいさつのあと、事務局長の谷田部県本部組織部長が10月１日から適用となる「非常勤職員の地方公務員共済短期給付・福祉事業の適用」について提起しました。

民間企業における被用者保険（厚生年金保険・健康保険）の適用拡大の状況を踏まえ、地方公務員共済組合制度においても短時間労働者へ適用されることになりました。

適用開始となる制度は主に短期給付・福祉事業で、身近なところでは健康保険が共済組合に変更となります。臨時非常勤等職員が組織されている労働組合では、この制度について理解を深め共済組合担当者から当事者に対し制度について説明が必要となってきます。

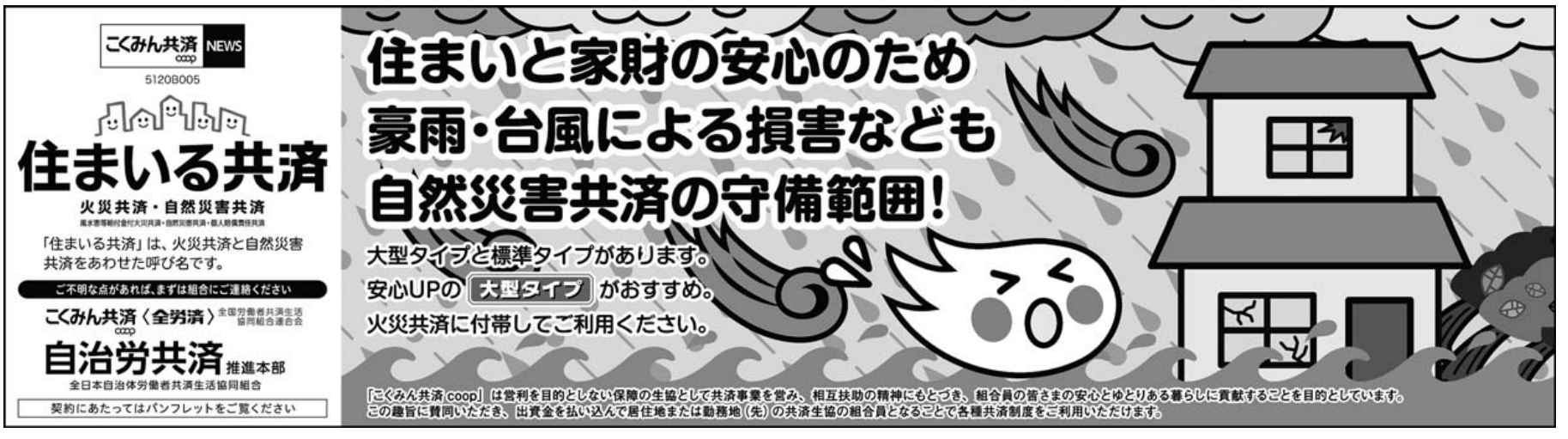
提起後、参加単組からは交渉時などに当局からの説明や確認がされた状況が報告されました。

このあと、１年間の取り組みの経過と今後の闘争方針、執行体制を確認しました。

会計年度任用職員の労働条件は、勤勉手当の不支給など改善が必要な多くの課題があります。要求課題の実現のためには、まず組織の拡大、仲間づくりが大切です。

臨時職員評議会執行体制

議　　長	大越　正章	県職連合
副 議 長	中島　映子	水戸市会計年度任用職員組合
事務局長	谷田部恵太	県本部組織部長
幹　　事	樫村友理映	水戸市会計年度任用職員組合
幹　　事	山口　弘子	県職連合
	浦田　広行	鹿嶋市職嘱託職員対策部
	大野　温子	牛久市職臨時非常勤等評議会
	竹上　範子	牛久市職臨時非常勤等評議会
	菊池　弘史	日立市職
	鈴木　智子	日立市職



視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用できない人のために、営利を目的とする場合を除き「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等の製作をすることを認めます。その際は著作権者、または、出版社まで御連絡ください。

組合に結集し、交流を

青年女性労働学校（後期）

活動の大切さ学ぶ

講演する（上から）柳生書記次長、鈴木前女性部長、河野前青年部長

県本部青年部・女性部は９月11日、自治労会館で第39期青年女性労働学校（後期）を開きました。11単組40人が参加し、講演による学習とともに分散会で交流を深めました。

主催者を代表して鈴木女性部長は、今日の参加により、交流からさまざまな職場実態を知り、自分の職場課題を見つけてほしいとあいさつしました。

県本部生井澤書記長からは、今年８月に出された人事院勧告は月例給引き上げ改定が若年層を中心に行われたとして、例年より深く関係する勧告内容について学ぶとともに、身近な仲間からの講演を聞いて職場で活かしてほしいと訴えました。

講演はテーマを二つに分け、はじめに県本部の柳生書記次長が「人事院勧告とわたしたちの賃金」と題して講演。人事院勧告の仕組みと今年度の勧告概要、そして私たちの賃金がどのように決定していくのかを分かりやすく解説しました。

前部長からの講演を聞く

次に、「組合活動から見えたもの」をテーマに、県本部前青年部長の河野光由さん（那珂市職）と前女性部長の鈴木絵梨奈さん（鉾田市職）が講演しました。

河野さんは、組合活動を通して職場を越えた新しい人とのつながり、ほかの自治体で働く仲間と情報共有することで関心を持ち、新たな気づきが生まれる。また、現在の休暇制度や給与の改善は組合が勝ち取ってきた成果であるとし、多くの人の組合への結集と活動の大切さを訴えました。

鈴木さんからは、コロナ禍でもできることを工夫して取り組んできた女性部の活動が報告されました。アンケート結果からは、生理休暇の取りにくい職場環境やマタハラの実態などが見えてくる。ブロック女性学級など単組を越えた仲間との交流は、多種多様な取り組みの報告や意見を聞くことができる貴重な機会。単組活動を充実させるためにも交流は肝心であるとしました。

このあと参加者は分散会を行い、職場の人員不足による時間外の増加、不払い残業、人事評価制度の課題など職場実態や課題を共有しながら交流しました。

最後に小松青年部長が、講演や分散会で出た課題を自分がどう感じて、今後職場でどのような行動をとっていくかが大切であると集約し、閉会となりました。

後半、参加者はグループに分かれてそれぞれの職場実態などを議論

第53回

はたらくものの音楽祭が閉幕

９月３日～４日、水戸市のザ・ヒロサワ・シティ会館小ホールで開かれた第53回はたらくものの音楽祭（主催：日本音楽協議会）が無事閉幕し、２日間で約３００人が来場しました。

開催にあたり、自治労茨城県本部はじめ連合茨城を中心とする労働組合と日本音楽協会茨城県支部が茨城県実行委員会を立ち上げ、当日までの準備や会場設置など運営に携りました。

音楽祭オープニングには、内山連合茨城会長からあいさつをいただいたほか、芳野連合会長、立憲民主党の泉代表などからも祝電メッセージが寄せられました。

ロシア軍によるウクライナ侵攻では、無辜の市民が巻き込まれています。このような平和が危ぶまれる時こそ、働く者が平和を歌い危機的状況を切り開き、労働運動の前進を誓おうと音楽祭には全国から20以上のグループが結集。労働環境の改善や戦争反対、人権問題などのメッセージを込めた歌や曲を披露しました。

自治労茨城県本部は運営スタッフとしても参加し、県本部青年部副部長の髙野和寿さん（国保労組）、同じく副部長の那須照幸さん（鉾田市職）が司会として会場を盛り上げました。

司会の髙野さん（国保労組）（右）

演奏する日本音楽協会茨城県支部のメンバー

司会の那須さん（鉾田市職）（左）

全国から集まった音楽祭